

## 【全体概要】

2018年2月に策定された、超長期ビジョンと長期戦略からなる将来構想 Kwansei Grand Challenge 2039 は、時を移さず中期総合経営計画の策定に入りました。2022年度は、昨年実施した中期総合経営計画のPDCAサイクルとして3年に1度実施する「(第1フェーズ) トータルレビュー」による、超長期ビジョン・長期戦略の見直し及び全実施計画の内容修正・再策定を基に、第2フェーズ(2022-2024)として新たなスタートを切りました。

2022年度も新型コロナウイルスによる影響があり、停滞を余儀なくされた中でもいくつかの分野・項目は着実に進展し、目に見える成果を生み出しました。以下に主な実績を記しますとともに、各実施計画の詳細な進捗について、長期戦略テーマ別にまとめて記します。

- ・ SGU 事業において、実渡航・実受入を再開するとともに、Collaborative Online International Learning (COIL) や Virtual Exchange (VE) などオンラインを活用した国際交流プログラムを継続して実施いたしました。
- ・ 昨年竣工した国際教育寮「有光寮」(全83室)への入居を4月より開始しました。外国人留学生58人を迎え、日本人学生20人と共に、新たな生活をスタートしました。
- ・ 神戸三田キャンパスにて、Ⅷ号館を8月に竣工。1階には、窓口が点在していた事務機能を統合させた事務室を配置し、学生の利便性を向上させました。17の教室に加え、パウダールームも設置しております。また、屋上には、天体望遠鏡を設置し、理学部宇宙・物理学科の教育研究用途以外に、近隣の小中高生向け体験イベントを実施します。
- ・ 入学時から卒業後を通貫したキャリア教育プログラムを2022年度より開講しました。導入科目である「KG キャリア入門」はオンラインにて開講し、約1.1万人が受講しました。
- ・ 神戸三田キャンパスにおいて、正課外プログラム「KG スタートアップアカデミー」を4月から実施し、正課科目であるアントレプレナー育成授業と連携することで、起業家育成に向けたシステムを開始いたしました。
- ・ AI(人工知能)やデータサイエンス関連の知識を持ち、それらを活用して現実の諸問題を解決できる能力を有する「AI 活用人材」の育成を目的とした「AI 活用人材育成プログラム」(全10科目)のうち、ブラウザ上でプログラミングができる環境を構築するなどして、新規1科目を完全オンライン化しました。
- ・ 昨年開設した「関西学院大学競技スポーツ局(Kwansei Gakuin University Athletic Department)」において、主な施策の1つである「地域貢献・社会貢献」事業として、1協会・3企業とのパートナーシップ協定を締結いたしました。学生アスリートの健康・安全を守る取組みを進めています。
- ・ 大学発のベンチャー企業として、パワー半導体材料であるSiCウエハーの研究開発を行う「QureDA Research 株式会社」を豊田通商株式会社と共同設立いたしました。
- ・ 関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”を院内への浸透をめざす、院長室からのメッセー

ジ動画「風に思う」の定期配信を開始しました。

- ・ 高等部において、SDGs の概念や 17 のゴールを学び、平和を構築するために「AI 活用」「実社会での学び」「海外との交流」をキーワードとした探究型科目を継続開講するとともに、「中・高校生 探究の集い」を開催いたしました。
- ・ 兵庫県の支援を受けて、初中等教育向けのアントレプレナーシップ教育プログラム「BizWorld」を高等部にて導入し、起業家精神を学ぶ「ひょうごスタートアップアカデミー」に参加しました。
- ・ 関西学院の教員らが持つ専門的知見を 5 つのテーマ（Career, Culture, Technology, Well-Being, Research）で取り上げるオウンドメディア「月と窓」を新設しました。30 代～40 代のビジネスパーソンに向けて、豊かな未来のための「知」を配信しています。
- ・ SDGs に関心の高い学生や団体をつなげて、その取組みを加速させることを目的とする「KG SDGs キャンパスサポーター」を設置して、ひょうご SDGs シンポジウムなどに登壇しています。

## 【長期戦略テーマ別概要】

### （学士課程教育）

#### <在籍時の学修成果の把握・評価>

長期戦略の主たる目標でもある「学修成果の修得」は、一般的な学位単位での学修成果に加え、留学等の付加的な正課プログラムや正課外教育も含めた広義な教育としても学修成果が修得されると定義している。「学部は区別なく学生が共通に身に付けるべき知識・能力・資質」として 10 のコンピテンシーをまとめた『Kwansei コンピテンシー』を活用して、入学時と卒業時との比較分析を行った。

#### <教育の長期的成果の検証>

卒業後 56 年目まで調査を広げ、「質の高い就労」を実現した在学時の学び等と「真に豊かな人生」との関連性を IR による分析にて進めている。また、学生調査を継続実施し、改善要望が高かった自習室の設置などに対応した。

#### <カリキュラムの基本構造の改革>

2018 年度に策定した『Kwansei コンピテンシー』を身に付ける基盤教育の確立をめざしている。スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU 事業）にて定めた『ダブルチャレンジ制度（入学した学部等での学びに加え、留学等国際分野や他分野を学ぶ副専攻、実社会を経験するハンズオン・ラーニング・プログラム）』を進めるとともに、AI を活用して社会課題を解決に導く AI 活用人材育成プログラム（全 10 科目）において、5 つ目となる「AI 活用 Web アプリケーションプログラミング演習」科目を e-Learning（完全オンライン）化した。AI 活用人材育成プログラムは一般社会人向けにも提供しており、2021 年度文部科学省委託事業「DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」に採択された。

#### <教育分野の再編>

教育分野の大きな改革である、神戸三田キャンパスにおける理系 4 学部（理・工・生命環境・建築学部）の新設と総合政策学部の再編において、特長ある 4 つの教育研究（1.地球規模課題に革新を起こす探究、2.国境を越えた学び、3.文系理系や学問分野の境界を越えた学び、4.大学の枠を越えて実社会で起業する学び）を具現化する科目やイベント等を順次実施した。加えて、受験生へのアプローチを強化した入試広報を継続実施した。

#### <国際化の推進>

SGU 事業により、2023 年度まで構想で定めた目標（協定校への派遣 2,500 人/年、受入 1,500 人

/年等) に向かって着実に大学全体の国際化を推し進めている。2022 年度は、派遣 1,569 人・受入 1,672 人とコロナ禍より大きく戻ってきている。

#### <国連等との連携強化>

2017 年度に開設した、大学院における副専攻プログラムとしての「国連外交コース」および学部における「国連・外交プログラム」を推進していくことによって、国際公共分野で人類の課題に挑むグローバルリーダーの輩出を目的としている。2022 年度末現在、3 名が国連・国際機関にて勤務している。

#### <正課外教育の推進>

「関西学院大学競技スポーツ局 (KGAD)」にて、競技スポーツとその関連する活動によって、Kwansei コンピテンシーに掲げる知識や資質を修得させる。また、指導者の育成やスポーツの安全性・健全性を高める施策を支援している。なお、加盟数は 2022 年度末現在、20 競技・28 チームである。

#### <教員個人・組織の教育力向上>

学修成果検証など高等教育界の変化に対応するために教員個人や教員組織としての継続的な教育力向上を図る。2022 年度は、新任教員研修をはじめとする FD 研修の充実やシラバスの第三者チェック等を継続実施した。

#### <ICT による教育・学修支援>

キャンパスでの対面授業とオンライン授業の併用に対応すべく、授業支援ツールのさらなる利便性の向上を目指した改修を行った。

#### <対面的なコミュニケーションの促進>

大学図書館やラーニングコモンズなど学生同士が交流する空間を提供することで、『学生の主体的な学修』を支援している。神戸三田キャンパスと西宮聖和キャンパスにあるラーニングコモンズを活用した学生団体の交流・イベントを実施した。

#### <学修支援の充実>

学術的な文章作成能力の向上を支援する「ライティングセンター」において、スタッフによる助言・添削を受けられる対面指導を継続実施し、多くの学生らが利用した。

#### <学生生活支援の充実(寮)>

日本人学生と外国人留学生の混住型国際教育寮における共同生活を通じ、国際理解教育を進めている。2022 年度は、本学が保有する全学生寮における教育的施策を担うため「レジデンスセンター」を開設し、運営管理にあたった。

#### <受入段階での多様性と学力の担保>

一般入学選抜試験において、受験生がより志願しやすいよう入試制度の名称変更や出願手続き期間の延長、理系学部志願者対象併願減額制度の導入等を継続実施した。

### (大学院教育)

#### <研究者の輩出>

研究者輩出をめざし、将来その 90%以上が研究者となる日本学術振興会特別研究員の採用者またはそれと同等と評価された者が博士学位取得後、3 年間本学にて「特別任用助教」として雇用する、若手研究者スタートアップ制度を継続実施した。

#### <理系研究室の充実>

「大学院科目先取り履修制度」を全研究科へ展開し、昨年比約1割増の200人(うち理系は190人)が活用した。また、博士課程前期課程修了者が希望する研究開発職へ就職できるよう、引き続き企業との連携を深めている。

## (総合学園と一貫教育)

### <関西学院のアイデンティティ共有>

スクールモットー“Mastery for Service”を初等部から大学院までの各学校にて浸透すべく、院長室が中心となって、メッセージ動画「風に思う」の配信を開始した。また、インナーコミュニケーション施策の1つとして、将来構想KGC2039に積極的に取り組む学内部署に焦点を当てたインタビュー記事「Focus Group Interview」をウェブサイトに掲載している。

### <特長ある一貫教育の創出>

「キリスト教主義に基づく全人教育」を行うことで、自身の周辺に対して、より良い影響を与えることができる人材を輩出することをめざし、短大・各学校それぞれの中期計画(2022-2024)を推進した。また、本学の大学生が先輩として、高等部生の学習を支援する「大学生メンター制度」において、NPO法人ブレインヒューマニティーの協力を得ることで、生徒一人一人に寄り添った形で安定的な運用を図っている。

## (研究)

### <個別研究の活性化>

URAや産官学コーディネーターによる科研費等外部資金獲得の支援を行うことで、個別研究の活性化に取り組んでいる。しかしながら、コロナにより学会等出張ができないなど、研究実績は昨年同様減少せざるを得なかった。

### <研究ブランドの確立>

物的・人的資源を集中的に支援強化する「インスティテュート制度」において、2件目の研究プロジェクトを採択し、さらなる大型化と研究ブランドの確立をめざしている。

## (産官学連携)

### <KSCでのイノベーション推進>

スノーピークとエンリッジョンと本学による産官学連携事業「オリジナルマイボトルによるKSC内ペットボトル削減エコシステム」において、2019年度比約8.8万本を削減する成果を上げることができた。

## (学校経営)

### <新規事業の財源確保>

財務・業務改革本部が中心となって進めている。2027年度までに実現すべき収入増加・支出削減額

を定めており、多くの施策に取り組むことによって、収入増加・支出削減とも目標額をクリアした。

#### <学生規模>

魅力的な教育プログラムを新設し、ST比の改善（教員体制の増強）を行うと共に学費改定もセットで行う総合的な施策「学部教育改革施策」を策定した。2021年度は経済学部が採択され、特設ウェブサイトの作成等入試広報活動を進めている。なお、2019年度に採択された法学部、2020年度に採択された商学部それぞれ、新カリキュラムのスタートを切った。

#### <(職員)人事政策の確立>

行動指針となる Value & Attitude の全学的な検討と策定、経営を担う職員人事制度における職務定義、研修制度等の検討により、業務の高度化へ向けたリソースシフトをめざしている。

#### <施設建設・設備整備計画>

総合建設計画（2018-2027）において、建て詰まっている西宮上ヶ原キャンパスでは、安全な学生の動線確保と教育研究環境の改善をめざし、2022年度は第4別館を改修するとともに、全学共用棟の解体工事に着手した。

#### <革新的な情報環境の構築>

学修支援ツールの開発などの教学DXと、多様な学び・働き方を実現するICT環境整備などのDX推進基盤整備を中心とする「DXをめざす情報化計画」を策定し、2023年夏に予定している既存システムのリプレースと連携しながら、個別施策に取り組んだ。また、業務効率化推進プロジェクトと連動して、業務のシステム化・標準化・集約等を行うことで余力を生み出し、高度な業務を担えるよう各種施策を実施している。

#### <Evidence-based Management の推進>

4月にIR推進本部を設置し、経営と教学の総合的な視点でのIR(Institutional Research)の取り組み強化を図ることに加え、本将来構想Kwansei Grand Challenge 2039の成果を測るKGI・KPIダッシュボードにおいて、2022年度版として各データの更新を行うとともに、大学の各学部・研究科独自のKPIを活用することで、マネジメントの質向上をめざしている。

#### <二つのPDCAサイクルの統合>

2020年度に受審した機関別認証評価において、是正勧告・改善課題が付与された学部・研究科における改善計画の策定とその推進に取り組んだ。

#### <卒業生との連携>

地域貢献の1つを主眼とした「K.G.ライフスクール」をオンライン方式など併用しながら開設している。

#### <SDGsの推進>

国連大学SDG大学プラットフォームに参加するなど、積極的にSDGsに取り組んでいる。

以上